

Eastern Asia II. Bot. Mag. Tokyo 68: 14-24.

* * * *

ウツギ属のサラサウツギの胚嚢形成過程を調査した。胚嚢は単孢子性 8 核タデ型に従って形成される。4 核期の胚嚢は著しく伸長し、珠孔を抜け、珠孔側の一部が胚珠の外に裸出する。胚嚢の珠孔端だけが裸出するものから胚嚢の約 1/3 が裸出するものまで、様々な変異がみられた。胚嚢形成過程が調べられているウツギ属のマルバウツギやウツギでは、胚嚢の約 1/2 が裸出するが、バイカウツギ属のバイカウツギでは、珠孔端だけが裸出するにすぎない (Satô & Inoue 1985)。さらにサラサウツギでは、珠孔端に 2 核と合点端に 1 核を持つ 3 核期の胚嚢と珠孔端に 1 核と合点端に 2 核を持つ胚嚢がときどき観察された。これは 2 核期の胚嚢の 2 核の分裂が同調していないために生じた現象と考えられる。珠孔端の核が合点端の核よりも先に分裂する現象はウツギでみられ、合点端の核が先に分裂する現象はバイカウツギでみられている (Satô & Inoue 1985)。これまでに調査されたウツギ属とバイカウツギ属の胚嚢形成過程では、それぞれ独特な特徴がみられる。サラサウツギはウツギ属とバイカウツギ属の中間的な発生学的特徴を持つとともに、両属に独特と看されてきた発生学的特徴を合せ持っている。つまり、これまでに調査されたウツギ属とバイカウツギ属の発生学的特徴は、サラサウツギのそれによって結び付けられると考えられる。このことは両属が近縁な関係にあることを示すものと考えてよいであろう。

□Szániszlo, P. J. & J. L. Harris (ed.): **Fungal dimorphism, with emphasis on fungi pathogenic for humans** 395pp. 1985. Plenum Pub. Co., New York. テキサス大学の Szániszlo 教授が Harris 教授とともに編集したもので、23名の学者の協力を得ている。一般菌類形態学、酵母の組織形態学、酵母と菌類の組織、アイソトロピック状に肥大した組織形態、2 型性のケカビ類の 5 部門に分けて記述している。扱った菌類は動物、とくに人体寄生菌で、糸状菌の *Sporothrix*, *Ceratocystis*, *Chrysosporium*, *Candida*, *Exophiala*, *Mucor*, および酵母類である。主な問題は、自然と培養状態の諸菌について、2 型性の微細構造、温度による変化、かけ合わせの反応、酵母の分裂、環境による制御、組織培養法、菌糸の成長、核癒合、菌と寄主との関係、呼吸作用と醗酵、lipid 合成、酵素合成、DNA 生成と核分裂との関係、胞子の発芽、菌糸より酵母細胞への移行、炭素と窒素の代謝等である。 (小林義雄)